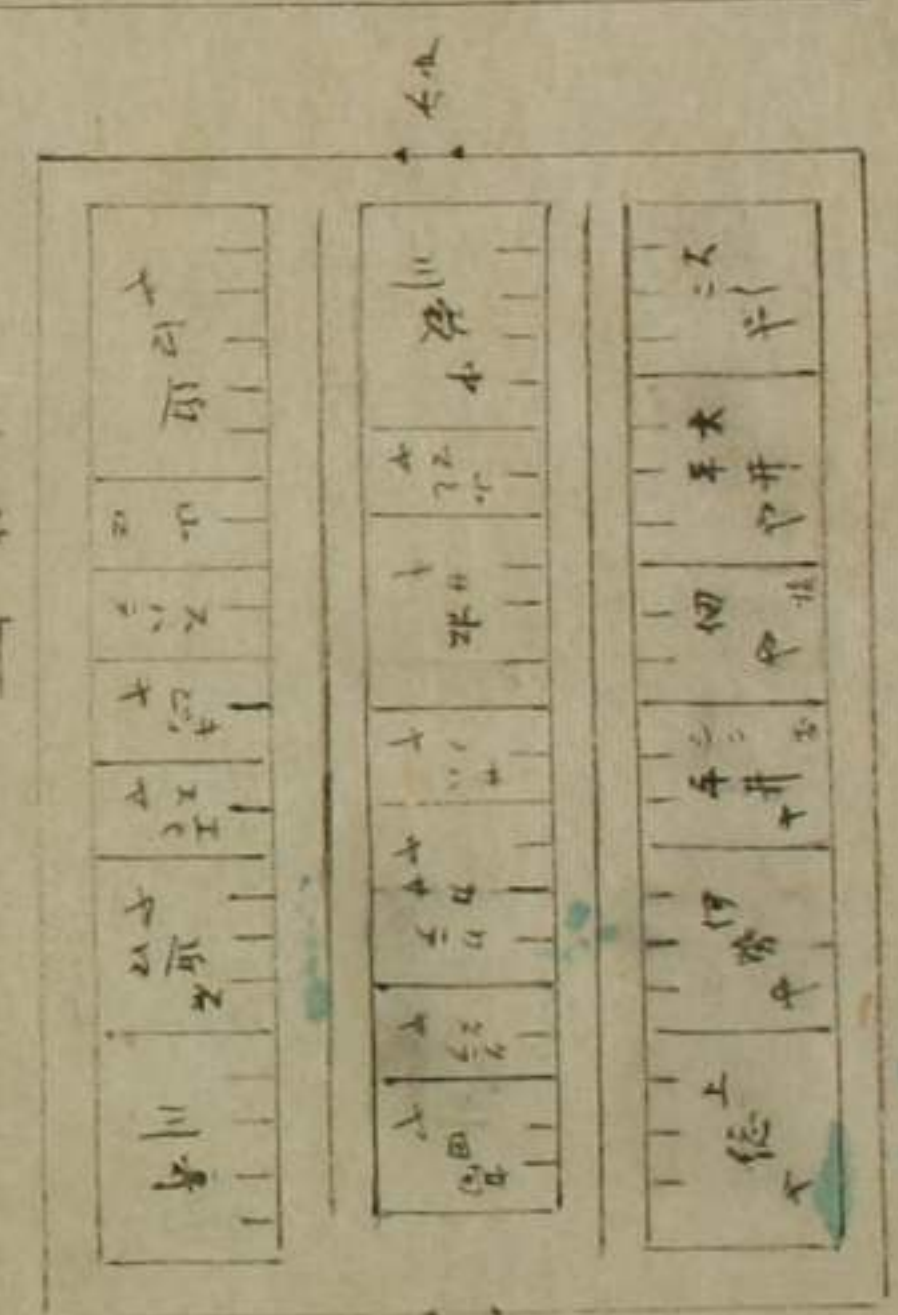
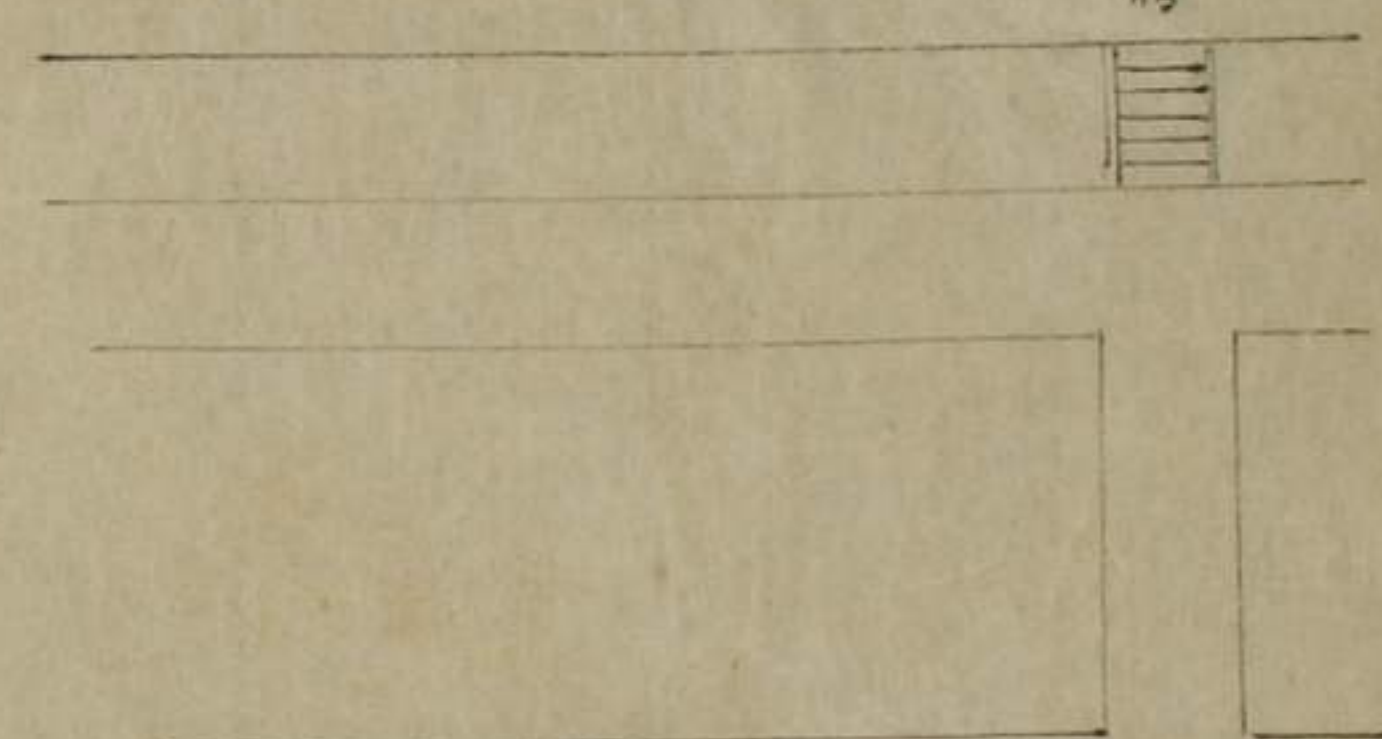


あゝれさや

二

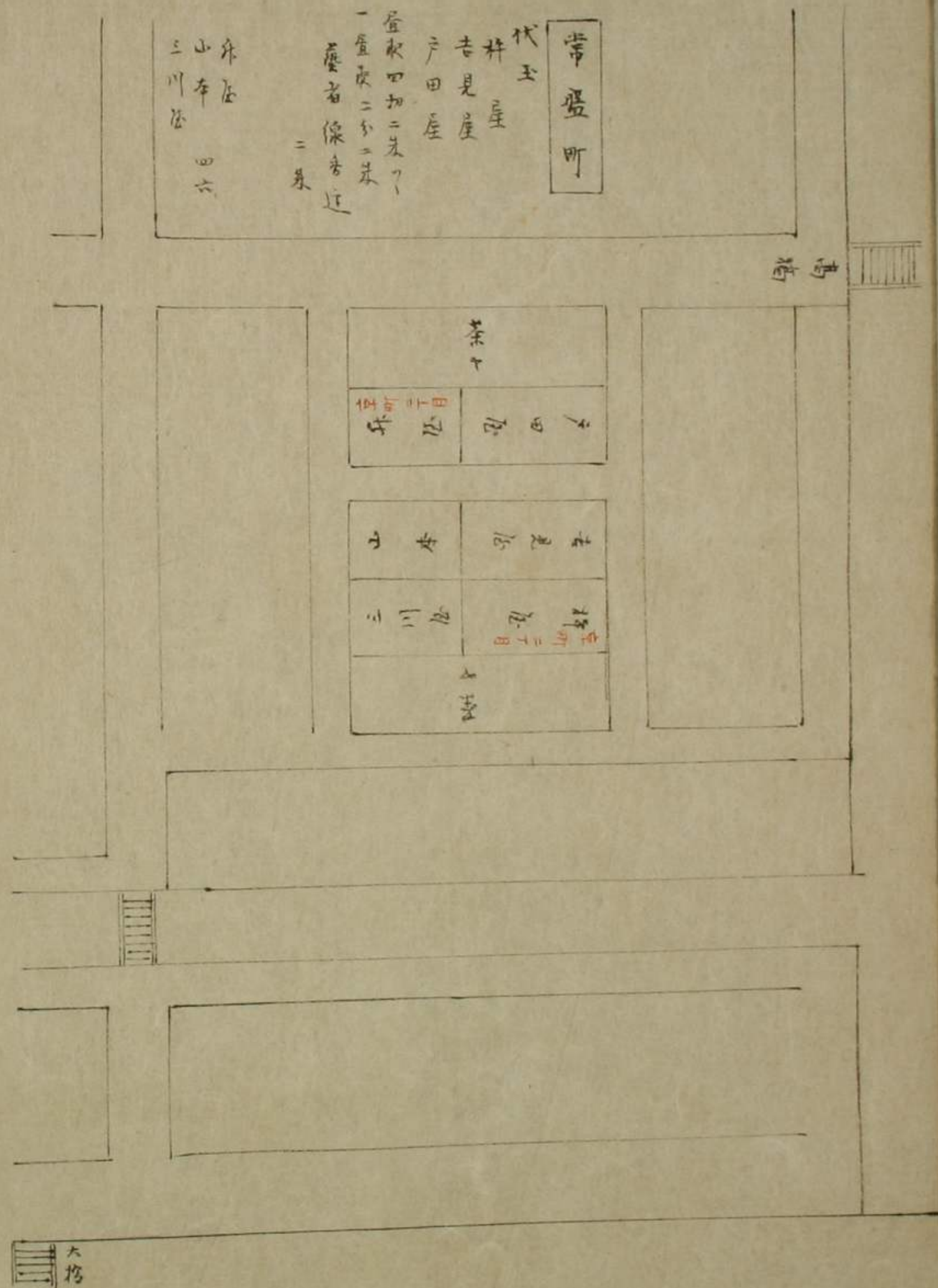
76
1228
2



常磐町

遠近懐宝 深川常盤町 一丁目 通子橋 二丁目 河口三丁目

日本新林町一 此常磐町寛政二年戊酉月申元北
 本不四之橋南方深川南松代町類焼法は月北相
 第日四月中高村の場不元武取上北跡野地と下
 本文と通町名唱り中 **世俗奇語** 酌多々女多々
 くと多き所好々を耳善清言者ナリ **豊芥子曰** 文
 政年中焼失以有ハ高や松板屋小松巾着袋や百
 松やとありと 次々小妻人々今ハ終小女多々
 辰巳の花 **常盤町** 至辰全二分二条但一尾や **娼婦**
 人 戸田屋 **娼婦** 十老 **娼婦** 十 **里老** 日 新大と一 東
 山北おありと 寛政年中と 掛小女と一 跡北



下右叔花の送立ちありて千餘波に常盤所へ引けし
 なり此の所は古秋四切ありて一切全二萬の味出
 一カマ一カマの所は古秋一カマ一カマの味出
 六見也も交りたり

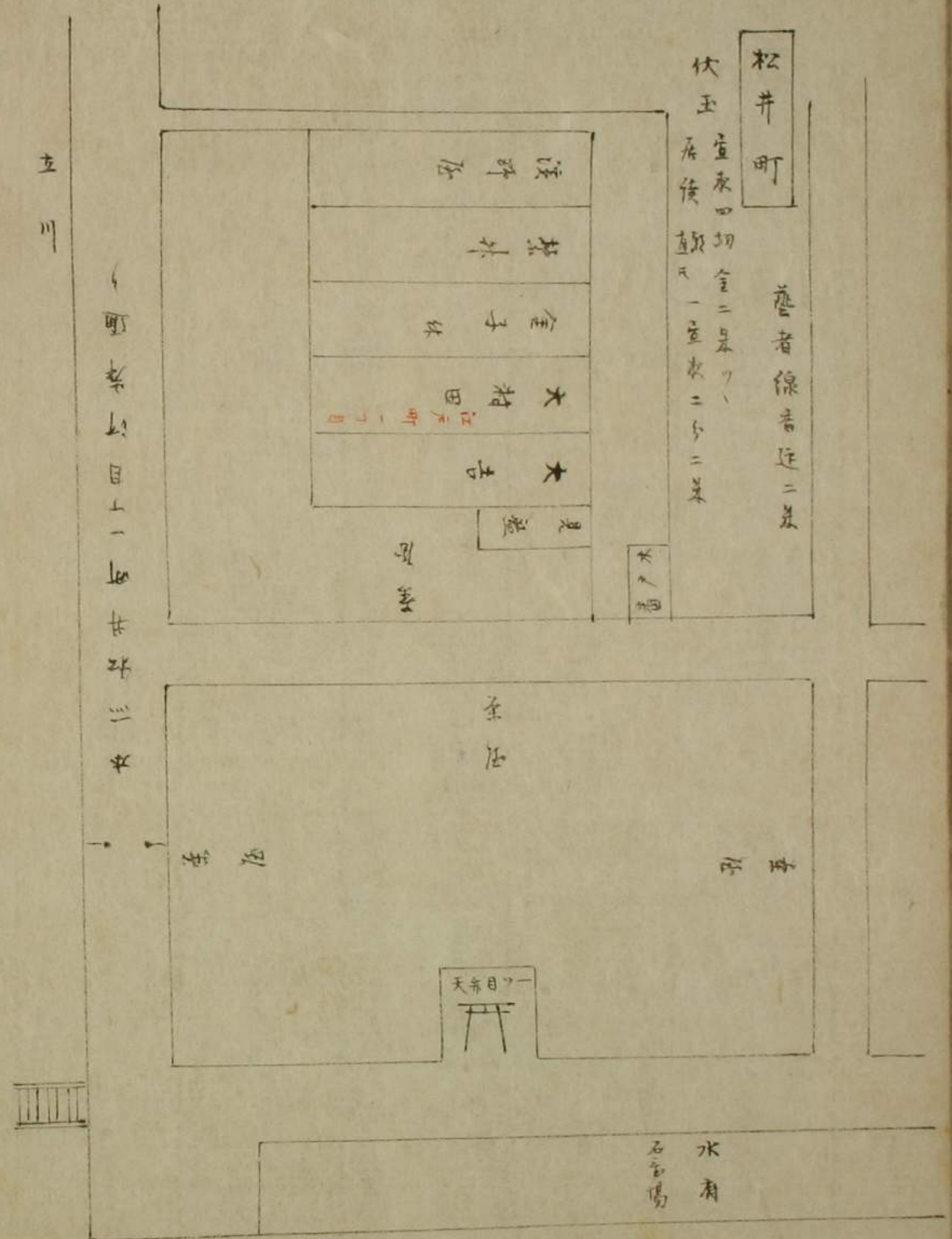
あしび

深川八幡は旅の門前年代記八幡の旅六の茶店子
 中名八幡は旅の門前年代記八幡の旅六の茶店子
 一たゞ一人一人の日常契固策旅の旅石の鑑八幡
 旅の南鐘の頭を以て神馬と繋ぎ切つて
 評判記

本所入江町一丁目二月二十日
 代能入江町四丁目
 世本係不詳陸重と云
 本所入江町
 下生本所入江町
 此年
 此年

入江町

本所入江町一丁目二月二十日
 代能入江町四丁目
 世本係不詳陸重と云
 本所入江町
 下生本所入江町
 此年
 此年



入 口 面

目 次

定 鐘 屋

南

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

武 家

武 家

武 家

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

好 鐘 屋 入 十 十

外ニ四六此浄土衣類人がくちくち谷小日一但一
 引くこのな一は不の四六見世之四家ありはとは
 昔ハ四六見世也四列ありはハ世信小四列終り
 糸の凡のとはハ五列小すはハ世信小四列終り
 五畧の人がくちくち杖の類の契國策社ハ江町石
 不鑑鐘撞壺 五十の塔ありは甚好祀ハ江町石文二百
 十文五道里花上止 鐘撞壺何のやは氣味の悪
 山姥

六尺長屋

本不陸天正浦里老曰 与見世形也

いふてありて花鳥と森の原に藤毒山如き寺に
了け不強の外秘所なり其好記所なきは二文

量芥子曰 宝永二年十一月十一日吉原上書小付

所見はくく 運恒真 年別 吉田島 鐘撞堂の辺小

信て編福と日くあつたが対小群て出温源

の地と母んで柳、本或ハ材本の同小才と如く

を引出む老鳥も振袖の翅をけ恒鳥上邊入

者日なりそして鼻と鼻と再交けく丸ハ中橋

〜 誰階江戸各所 本不吉田町 去り〜 一四

十島田中橋の雲 或書 本所東邊の始ハ元禄十一

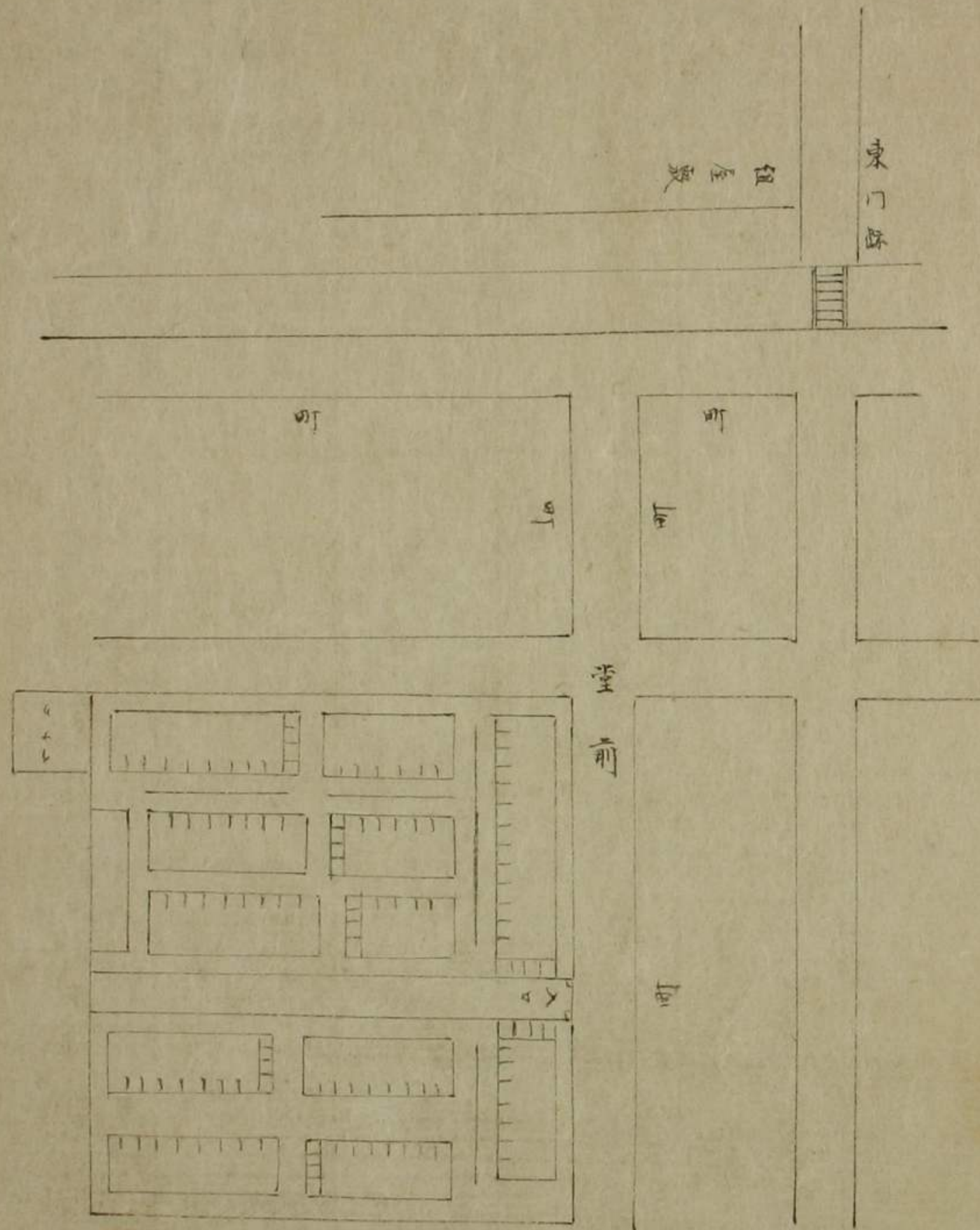
年九月六日教寄屋橋より出方一凡雨より午に
きて焼之と牛焼跡より西橋一お茶中ありて表
に女きて小西小海。若去徒急の原に措きて争
い買ひくく〜 始まると 以上 記

大下

評判記 上上 吉七 行延や〜 人月と馬山 既中

本所大下

吉田町



堂前

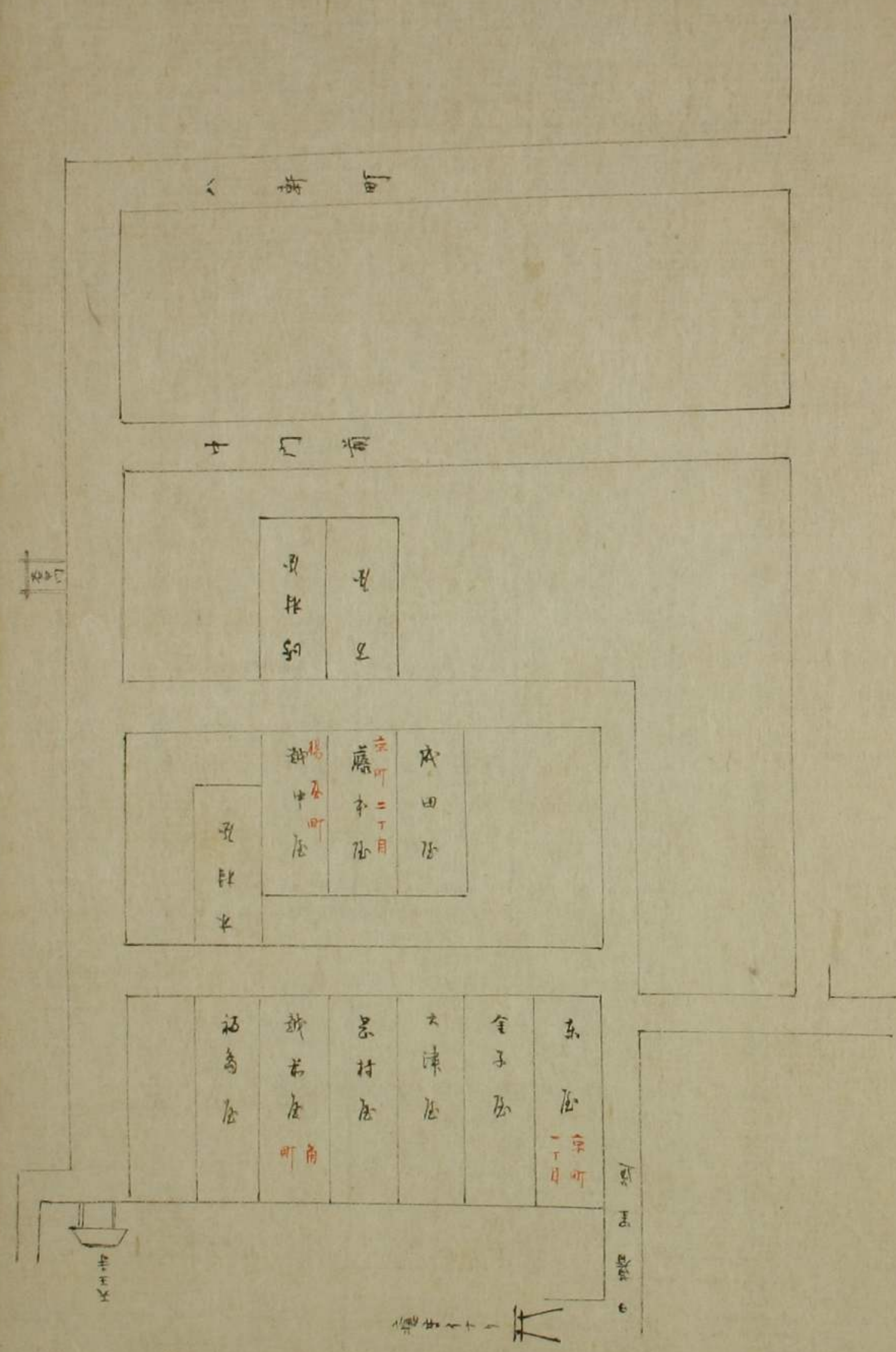
案底子 下指吉岡町 乃ヨ半 此淨土吉岡町 小部
 事形 一切賣口 前上出 租 吉岡町 入 江河 此類
 之也 入 雨 々 々 々

浅草通立と門前日新橋立と門前 契國策 遊女方
角園 天壹前 昔麻子 下品 浅草壹前 今ヨリ 浅草
鬘衣類人々 一店小 但引くハ女
一 名一 鑑壹前 京都 見也 出見也 意凡 の出
る麻 五十一銅 了 小 壹 壹芥子 曰 け 所と壹前と
明ハ 昔 三十三間壹前 地小 文禄年中 深
川上 移 られた 三 三十三間壹前 前 リ
弟 て 彼壹前 引 以 前 の 稱 ナ リ ト ハ
石 の 鎮守神 と 夫 先 福 為 リ 以 ハ 娼 女 ハ 竹 時 の 記
立 リ ハ 天 保 十 三 年 三 月 十 四 日 奈 覺

一丁四年十二月九日落忌一丁廢止

いろは

谷中天王寺門前茶屋所
 此契國策北所方角園
 文如茶麻子下端谷中いろは
 板一自丹毒とく不むて安
 一各二鑑谷中の井 井折四角之
 新うつとと云 江戸順礼
 いろは茶やいろは 色里三十三折
 赤谷中山いろ



は寺は月体書畧三年九郎申書 無業了と云ハ
出馬。いろは葉は書屋敷谷中下と通ひらそんれ
由初穂五百文 道里元 上くいろは 未了と立し
月とくよす 教了天狗 昔芥子日 宝永二年十一
月十一日吉原上書小谷中門前と有る字頭とて
娼寮ありて一紙紙とて一紙三十余年の古き所不
了 江戸國解 谷中感念子門前新葉屋何比門前新
葉屋所昔葉屋四十七部ありていろはは葉やと
之より一紙共計四十七部ありて一紙や里佐
の事は比所初葉女ありて高時六十七部存あり 或書

いろはと書たり暖簾と撰什一葉屋十三四部と
一紙のく名つて 芥子日
或人云いろはの名は詳なりて往古乱立の頃と
五十艘と云へて初見せたりと云ハ四十八部と
以て一節とて恒よりいろはと云ひしと云ハ四六の錢
見せと云へたり後よりと略之の稱の残りて不
らん

根津

根津宮永何根津門前所西所上涉り 契國葉 抄不

